

平成23年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

- 日 時 平成23年10月28日(金) 午前10時00分～午前11時30分
- 場 所 花巻市立花巻図書館会議室
- 出席者 委員
阿部 洋美、市川 浜、伊藤精二、日下明久美、坂本知彌、照井孝司、
晴山美紀子、藤原くに子、門馬優子(計9人)
- 課長び図書館長
佐藤正眞生涯学習課長 久保田泰輝花巻図書館長、金 善紀大迫図書館長、
高橋昭三石鳥谷図書館長、大石義徳東和図書館長
- 事務局
伊藤健一花巻図書館副館長、小原茂隆花巻図書館副主幹(業務担当)
- 欠席者 阿部 正委員、金子千鶴委員、清水 潮委員(計3名)
- 傍聴者 なし

●次第及び協議内容等

1 開会(伊藤花巻図書館副館長) 10時00分

2 会長あいさつ(坂本会長)

・図書館整備等について大事な時期にきている。よりよい図書館の整備のためにも皆さんのご協力をお願いする。

・議事の前に、花巻図書館の施設・設備の見学 10時35分まで

(坂本知彌会長) 改めて施設が狭く、階段も急であると感じた。

・会議成立の報告(伊藤花巻図書館副館長)

・出席委員9名、欠席委員3名で構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条の規定により、本会議が成立することを報告。

3 議事(協議会規則第6条により坂本会長が議長となる。)

(1) 花巻図書館整備市民懇話会の設置について

(久保田花巻図書館長) 平成18年の協議会の際にも施設の見学をしていただいた。蔵書数は多いが、施設の関係で十分に利用されていない面がある。この花巻図書館を整備していればということで、方向性が見えてきた。市民の方々から広く意見等を反映させるため組織を立ち上げることとした。担当は生涯学習課ということで、生涯学習課長から懇話会の設置について説明する。

(佐藤生涯学習課長) 別紙資料により説明 まちづくりの市民参画の手法として市民懇話会を設置する。委員は15名以内で、うち10名は公共的団体で青年会議所、婦人団体、老人クラブ、ボランティア団体等の代表者をお願いする。公募委員は5名以内としている。利用者アンケートを11月の1ヶ月間実施する。利用者アンケート等の検討を入れ、平成24年5月までに提言書を提出いただく予定。図書館協議会にも報告する。その後基本設計、実施設計へと進んで行きたい。

(質 疑)

(伊藤晴二委員) 市民懇話会の委員の公募が始まっているが、現段階の応募状況はどうか。また、アンケートの項目はどのようなものか。

- (佐藤生涯学習課長) 公募の状況については、現在 1 人の方から問い合わせがあり、応募用紙を送付した。アンケートの項目は、現在最終の詰めを行っているが、利用の回数や、目的、利用の満足度、今後充実してほしいもの、どんな図書館であってほしいか、どんな資料を充実してほしいか、どんな施設を整備してほしいかなどの項目である。
- (伊藤晴二委員) 石鳥谷、東和では子ども達が多く来館している。子ども達へのアンケートは行うのか。
- (佐藤生涯学習課長) 原則として中学生以上としている。小学生は設問の関係から難しいが、提言をまとめるいつかの段階で、子ども達の意見を伺う機会を設けたい。
- (藤原くに子委員) アンケートは、図書館利用者のみおこなうのか。
- (久保田図書館長) 図書館利用者と対面で行う。
- (藤原くに子委員) カウンターにおいておこなうのか。
- (久保田図書館長) 新聞等の閲覧者や学習室等の利用者にもアンケートを実施する。
- (日下明久美委員) アンケートはあまり難解なものでなく、自分の意見を書きやすいようにして欲しい。
- (佐藤生涯学習課長) できるだけ沿うようにしたい。
- (日下明久美委員) どのくらいの対象者数となるのか。
- (佐藤生涯学習課長) 人数というよりは、11 月の 1 ヶ月間実施するものである。
- (日下明久美委員) 記名式か、同じ人が何回も書くこともあるのでは。
- (佐藤生涯学習課長) 無記名です。
- (久保田図書館長) 統計上のことなのであまり影響は考えなくてよい。
- (晴山美紀子委員) 利用しない人にこそアンケートが大事ではないか。
- (佐藤生涯学習課長) 利用している方の声を聞きたい。まずは使っている人がより快適な、どんなことを望んでいるかを把握したい。地域に出向いてワークショップをやるので、利用していない方の声もその際に伺えると思う。
- (伊藤晴二委員) 学校には図書館担当がいる。子どもたちの声をきけるのでは。
- (佐藤生涯学習課長) 懇話会委員のなかにも子どもたちへの読書ボランティアが入っているので意見が聞けると思う。
- (藤原くに子委員) アンケートを書く場合、その場で書くのか。
- (久保田花巻図書館長) 項目が多いので、その場では難しいかもしれない、持ち帰りも含め、状況により対応したい。
- (藤原くに子委員) 項目があまり多くならないようにして欲しい。
- (市川 浜委員) 建設場所など、全般的に次の段階は。
- (佐藤生涯学習課長) 利用者が望むもの、理想の図書館像、皆さんのなかでコンセプトをまとめていくもので、場所などの議論を始めるとまとまらない。その後、提言を生かして基本計画策定委員会を立ち上げて行く。

(2) 図書資料への IC タグ 装備及び対応機器等の設置について

(3) 各図書館の臨時休館について

- (坂本知彌議長) 関連があるので一括して議題とします。
- (久保田館長) 第 1 回協議会の際に説明した平成 22 年度の繰越事業で、IC タグ 装備等の契約が締結され、IC タグ、対応機器等が決定し、整備する関係で臨時休館が必要になった旨説明。
- (小原茂隆副主幹) 添付資料 2 に基づき、IC タグ 装備及び対応機器設置等に伴う、作業の概要、IC タグ 装備及び未登録資料データ作成作業、委託期間、作業日程について説明、各図書館の臨時休館日については、花巻図書館が 11 月 28 日～12 月 5 日まで、大迫図書館と東和図書館が 12 月 6 日～12 月 11 日まで、石鳥谷図書館が 12 月 13 日～12 月 18 日までとなることを説明。12 月 22 日は全館臨時休館として、23 日までに最終的なチェックを行い、24 日から

本格稼働する予定である旨説明。IC タグの導入により、・職員の増員をせずに利用増に対応できる。・ゲートにより不正持ち出しに対応できる。・バッグを持ち込んでもよくなり、お客さんにいやな思いをさせなくて済む。・貸出返却を5～9冊でも1回に処理でき処理時間を短縮できる。・借りる本を他の人に見られないで貸出返却できる。・蔵書点検は今まで1冊1冊をバーコードで確認していたが、今度はハンディタイプのものでまとめてIC タグを読み取ることができるため、従来の3分の1程度の労力、日数で確認できることになる。と説明。また、花巻図書館は、臨時休館中でも1階の閲覧室等は開放する旨説明。

(質 疑)

(坂本知彌会長) 最小限の休館とするのですね。休館の前には特別多く貸出するのですか。

(小原花巻図書館副主幹) 今は行っていない。

(市川 浜委員) 費用はどれぐらいかかるのか。

(久保田花巻図書館長) 1億円ぐらいかかる。IC タグで5千万円、機器等で5千万円である。

(門馬優子委員) 花巻図書館は入り口が狭いが、どれぐらいになるのか。

(小原花巻図書館副主幹) 1通路である。

4 その他

(久保田花巻図書館長) 情報提供ですが、被災地支援ということで、移動図書館車を大槌町で9月から運行している。仮設住宅を回ってもなかなか利用は少ないが、長い目で支援が必要であると感じた。10月の2回目の運行では、小学校が仮設小学校に移転していたが、前田小に避難していた子どもが花巻の移動図書館車を知っていて、声をかけてもらったということもあった。

(門馬優子委員) 県立図書館で災害関連の資料を集めているというが、そういうものが手には入ったら図書館へ持ってくればよいのか。

(久保田花巻図書館長) どの図書館でもよい。花巻図書館でまとめて県立図書館へ送る。

5 閉 会 (伊藤花巻図書館副館長) 11:30

以 上